

ヒトエグサ養殖場・T I D水温計測定結果

瀬底正武

1. 目的

本部町備瀬崎養殖場は、30年近くヒトエグサの養殖を営んできたが、1994年頃から生育不良が頻繁に見られるようになり、1996年度には藻体の伸長が見られず無収穫の状況が続いたので、同町内の北里地区礁池内に種網を移動し、生育状況を調査した。

2. 経過及び結果

1995年度以降養殖シーズンに入ると、両礁池内漁場の調査を断片的に実施した。備瀬崎養殖場で天然採苗した種網を北里礁池内へ移動することにより、ヒトエグサの生育が非常に良いことが分かった。(シーズン中3回～4回の収穫) 1997年度には正式に漁業権を設定し、本格的な養殖生産が始まった。これまで養殖場として使用された礁池が、養殖場として使用出来なくなった原因を調査するため、T I D水温計(連続測定可能)を両養殖場に設置し、データ収集を行った。測定結果については表に示されるように、ヒトエグサの生育時期には北里養殖場に比べ備瀬崎養殖場が4℃～6℃高いことが分かった。ちなみに、アサクサノリ等の生育では、2℃～3℃の温度差は、その年の収穫に大きな影響を及ぼすと言われている。このように、海藻類の生育は水温と密接な関係にあることは、周知のことである。では、何故、備瀬崎養殖場は高水温なのか、その原因については分かってない。引き続き調査する必要がある。

尚、水温計回収後のデータ処理は、水産試験場が行った。ご協力に対し感謝致します。

3. 調査場所

本部町、備瀬崎礁池内養殖場・北里礁池内養殖場

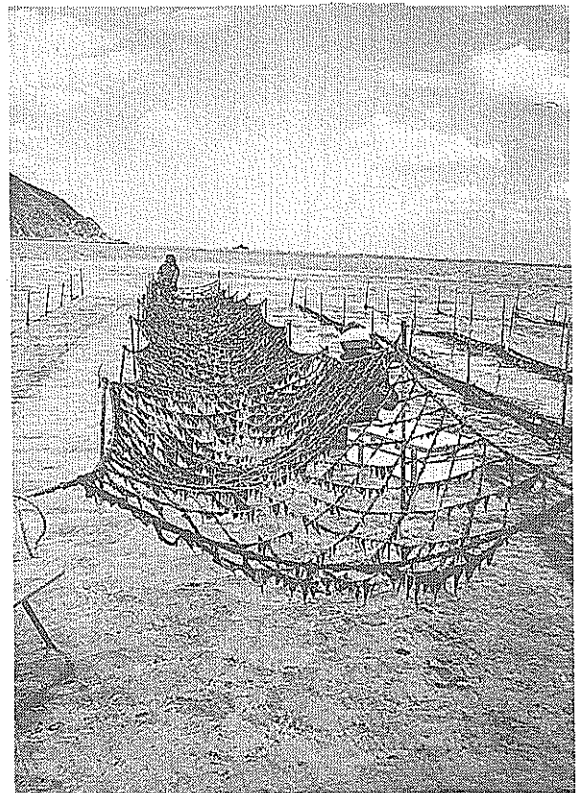
4. 調査に当たっての協力者

ア. 本部町漁協:

天久三男氏(備瀬崎養殖場代表)

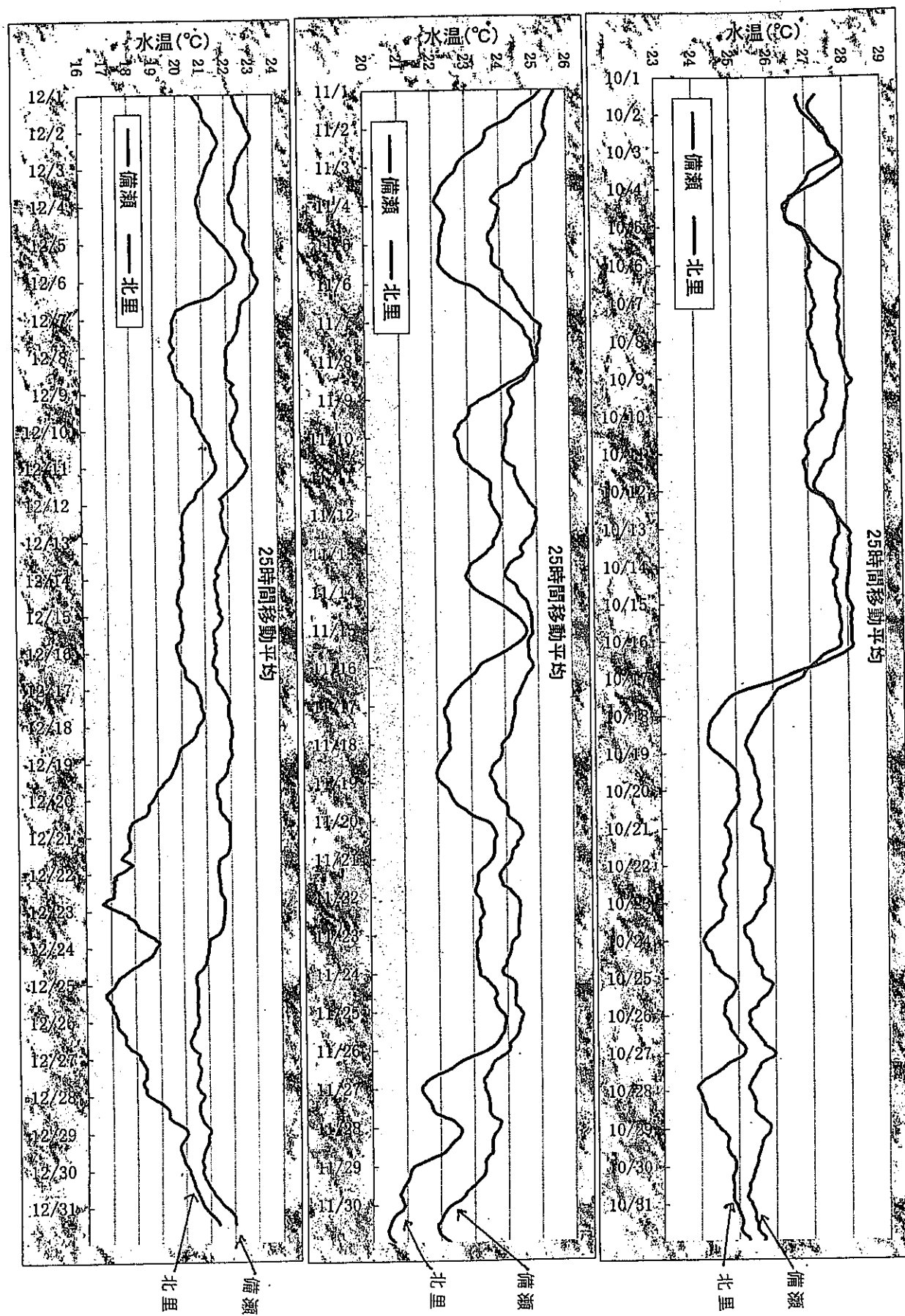
イ. 水産業改良普及員 甲斐哲也

5. 測定結果(別紙参照)



ヒトエグサ養殖場

Tidbit水温計測定結果 1999年



Tidbit水温計測定結果 1999年

